

プロゼミナールの目次

井 上 …… 1	大 杉 …… 2	沖 …… 3	加 藤 …… 4
繁 本 …… 6	園 部 …… 8	早 木 …… 10	朴（鏡） …… 11
福 村 …… 12	二 ツ 山 …… 13	古 川 …… 14	星 野 …… 16
松 岡 …… 17	宮 脇 …… 18	持 田 …… 19	森 貞 …… 21
安 井 …… 22	横 山 …… 23		

ナンバリングコード B4BSN-bcxE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード：323547) プロゼミナール (井上善) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期末5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目	簿記入門 会計学総論	
	履修推奨科目	簿記入門 会計学総論	
学習時間 講義 90分×15回＋自学自習 (準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 財務会計の基本的な概念と方法論について学ぶ。財務諸表から企業内容を読み取る力を養う。			
授業の目的 財務会計の基本的な概念と方法論について学ぶ。財務諸表から企業内容を読み取る力を養う。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
財務会計の基本的な概念と方法論について理解することができる。財務諸表から企業内容を読み取ることができる。			
成績評価の方法と基準 レポート (中間・期末の2回, 各50%) による。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 会計とは, 会計学とは 第2回 会計の諸領域 第3回 会計公準 第4回 会計原則 第5回 貸借対照表の意義と構造 (1) 第6回 貸借対照表の意義と構造 (2) 第7回 損益計算書の意義と構造 (1) 第8回 損益計算書の意義と構造 (2) 第9回 収益・費用の認識と測定 (1) 第10回 収益・費用の認識と測定 (2) 第11回 資産の意義と評価 (1) 第12回 資産の意義と評価 (2) 第13回 負債会計 (1) 第14回 負債会計 (2) 第15回 純資産会計 			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード：323563) プロゼミナール (大杉) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 大杉 奉代	関連授業科目	経営管理論、現代企業論、経営戦略論、マーケティング論、経営組織論、人的資源管理論A、企業倫理、等	
	履修推奨科目	経営管理論、現代企業論、経営戦略論、マーケティング論、経営組織論、人的資源管理論A、企業倫理、等	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習（準備学習 30時間 ＋ 事後学習 30時間）			
授業の概要 この授業では、経営学諸領域の理論や知識を用いながら、企業を取り巻く課題についてゼミナール形式で検討を行う。			
授業の目的 本講義は、 企業を取り巻く経営環境、企業の経営戦略について理論を用いて分析・考察を行い、プレゼンテーションを行う。 グループ単位でのプレゼンテーションなどの活動を通して、問題発見能力、問題解決能力、文章表現能力、口頭発表能力の向上を目指す。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この講義の目標は3つあります。 ①理論を用いて企業に関する分析ができる（学士課程のDP「b：知識・理解」に対応）。 ②企業に関する考察ができる（学士課程のDP「c：問題解決・課題探求能力」に対応）。 ③それらを口頭にて発表することができる（学士課程のDP「a：言語運用能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準 平常点（学習態度・発言内容などを含む30%），レポート（30%）および報告内容（40%）を総合して評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 第1回：イントロダクション ～講義概要及び本講義の位置づけ～ 第2～7回：グループの研究テーマに関する調査・分析または、ケーススタディと発表，ディスカッション 第8～14回：グループの研究テーマに関する研究内容の考察と発表，ディスカッション 第15回：まとめ 自学自習に関するアドバイス： 予習に関しては，研究テーマに関する統計調査・分析または，研究内容の考察と発表を行うのでグループにて準備（データ収集・分析・資料作成）を行うこと。 復習に関しては，発表，ディスカッションについてレポートにまとめること。 <			

ナンバリングコード B4ECN-baxE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 313511) プロゼミナール (沖) Pre-Seminar 経済思想史入門	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 baxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (準備学習 60時間)			
授業の概要 スミスにはじまりマルクス、ケインズ、シュンペーターと続く経済学の巨人たちの遺した思想を学ぶことによって、経済や社会に対する多様な見方を涵養する。			
授業の目的 文章作成、口頭発表に習熟するとともに、専門分野における問題の発見と分析、及び解決のプロセスを修得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・学術的形式に則ったレジュメ・レポートを作成することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 ・論理的なディスカッションを行うことができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 ・代表的な経済学者・経済思想家の理論・思想について、その概要を述べることができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
成績評価の方法と基準 出席、授業での発表、討議への参加、レポートなどを考慮して、総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 『入門経済思想史 世俗の思想家たち』(R・L・ハイルブローナー著)を輪読形式で読み進めていく。参加者には、討論への積極的な参加が求められる。さらに、輪読したテキストを踏まえて、各自興味をもったテーマについて発表してもらう。そのうえで、発表に基づいたレポートを学期末までに仕上げる。			
【授業及び学習の方法】 この授業は基本的に対面で行う。なお状況によっては授業形態を遠隔に変更する可能性がある。			
【自学自習ためのアドバイス】 報告担当者はレジュメを作成するなど、報告の準備をします (5時間程度)。それ以外の参加者は文献を精読し、疑問点や論点を用意します (2時間程度)。			
教科書・参考書等 R・L・ハイルブローナー『入門経済思想史 世俗の思想家たち』(ちくま学芸文庫、2001年)、1500円 (税別)。			
オフィスアワー 初回時に指定する			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ゼミには受け身ではなく主体的な姿勢で取り組むこと。 なお、無断での遅刻・欠席は厳禁である。			

ナンバリングコード B4ECN-bcdE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード：313522) プロゼミナール (加藤) Pre-Seminar 日本の福祉国家システムの基本構造とその課題	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目	福祉経済論、財政学、社会政策、経済政策	
	履修推奨科目	福祉経済論、財政学、社会政策、経済政策	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 現代社会において政府が果たす役割は大きなものとなっており、人々の生活の様々な部面に関わっています。日本では第2次世界大戦後、豊富な若年者人口と高い経済成長率といった好条件の下で、社会保障制度を構築・拡充するとともに、国の財政を通じた地域間再分配政策も強化して、日本型の福祉国家システムを形成してきました。 しかし20世紀末以降、急速な少子高齢化によって年金や医療・介護、子育て支援等へのニーズが高まる一方で、人口減少やグローバルな国際競争の激化によって日本経済の活力は弱まり、国や地方の財政状況も悪化しています。このような中、20世紀後半に構築された様々なシステムの再編が避けがたくなっています。 社会保障をはじめとして、政府の政策を実施するには、それを裏打ちする財源や資源が必要であり、その負担を国民間でどのように分担するかは常に大きな論点となってきました。しかし日本の現状は、必要な財源を租税や社会保険料だけでは賄いきれず、毎年、巨額の財政赤字を発生して、将来に返済しなければならない政府債務を累積させています。 本演習では、このような日本の現状を念頭に置きながら、日本の福祉国家システムについてその基本構造と特徴を学び、その課題について考えていきます。			
授業の目的 少子高齢化・人口減少が進行する中で、年金・医療・子育て支援などの政策の重要性は増しており、20世紀後半に構築されたシステムを21世紀の経済社会環境に適したものと改変していくことが求められています。 本演習では、第1に、このような社会的課題を理解し、多角的に検討するために必要な知識の習得と、論理的思考力の向上を目指します(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応)。第2に、専門的な文献や資料を読み、報告やレポートとしてまとめる力を身につけます(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。第3に、報告・議論を通じて、他者の発言・意見を理解する力、報告内容や自分の意見を他者に的確に伝える力、コミュニケーション能力の向上を目指します(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1)日本の経済社会の構造変化について、統計データ等を用いて検討し、説明できる。 (2)日本の社会保障制度の構造・変遷を理解し、それらを説明できる。 (3)日本の社会保障制度の課題を理解し、その主な論点と自分の見解を説明できる。 (4)テキスト等の内容をレジュメにまとめ、他者に的確に伝えることができる。 (5)他者の報告・発言の内容をきちんと理解し、それに対して質問や自らの意見を述べることができる。 (6)参考文献や資料を読み、レポートとしてまとめることができる。			
成績評価の方法と基準 (1)出席・発言・参加姿勢30%、テキストの報告・予習40%、冬休みの課題・期末レポート30% (2)無断欠席に関しては、単位を認定しない可能性があります。 (3)出席だけしていても、授業への参加意欲がない場合は評価しません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 ・授業は、ゼミ生の報告とディスカッションを中心に進めます。必要に応じて、講義や実習等を行います。 ・報告担当者は報告レジュメを準備し、わからない言葉等は事前に調べてください。 ・報告者以外の受講者も、事前にテキストや資料に目を通し、授業時に質問・コメントができるように準備してください。 ・授業形態は遠隔方式で行う予定です。状況によっては、授業を対面方式に変更する可能性もあります。			
【授業計画】 ※以下の15回のうち1回分は、「キャリア教育講演会」に振り替えとなります。 第1回：ガイダンス(自己紹介、テキスト報告の担当者決定など)(遠隔) 第2回：予備知識の学習(遠隔) 第3回：テキスト報告・ディスカッション(遠隔)			

第4回：テキスト報告・ディスカッション(遠隔)
 第5回：テキスト報告・ディスカッション(遠隔)
 第6回：テキスト報告・ディスカッション(遠隔)
 第7回：テキスト報告・ディスカッション(遠隔)
 第8回：テキスト報告・ディスカッション(遠隔)
 第9回：テキスト報告・ディスカッション(遠隔)
 第10回：テキスト報告・ディスカッション(遠隔)
 第11回：テキスト報告・ディスカッション(遠隔)
 冬休みの課題(期末レポートの準備作業となるもの)
 第12回：テキスト報告又は期末レポートに向けた学習(遠隔)
 第13回：期末レポートに向けた学習(遠隔)
 第14回：期末レポートに向けた学習(遠隔)
 第15回：期末レポートの提出と報告(遠隔)

【自学自習について】

- ・ 毎回、予習としてテキストや資料を熟読し、授業後には授業内容を整理して、テキスト等を再度熟読する。(25時間)
- ・ 第3～11回 報告担当者は報告レジュメを作成し、言葉の意味なども事前に調べて準備をする。報告担当者以外の受講生は、テキストを予習し、議論の準備をする。(15時間)
- ・ 第12～15回 テキスト報告を通じて勉強した内容を踏まえながら、各自が期末レポートを作成する。期末レポートのテーマや内容について、グループワーク形式での意見交換やディスカッションなどを行い、そこで得たヒントを活かしてレポートを完成させる。(20時間)

教科書・参考書等

授業では、教科書の内容を受講生に報告してもらいながら、学習を進めていきます。下の教科書を、全員、必ず入手しておいてください。

【教科書】

渋谷博史(2014)『21世紀日本の福祉国家財政 第2版』学文社(ISBN-13: 978-4762024634)

※「第2版」です。間違えないように。

※第1回目の授業に持参してください。

【参考文献】

厚生労働省『厚生労働白書』各年版

内閣府『高齢社会白書』各年版

財務省『日本の財政関係資料』各年版

オフィスアワー 木曜日 12:00-13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・ 重要な講義連絡を、ドリームキャンパスを通じて行うことがあります。必ず、ドリームキャンパスからの連絡を速やかに確認できるようにしておいてください。
- ・ 普段より、新聞やニュースをみることを推奨します。
- ・ 授業時間は成果報告を行うための時間です。準備作業は、授業時間の開始までに済ませてください。

ナンバリングコード B4BSN-baxE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード：323551) プロゼミナール (繁本) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 baxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 繁本 知宏	関連授業科目 計論B、監査論	簿記入門、会計学総論、財務会計論A、財務会計論B	
	履修推奨科目	簿記入門、会計学総論	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (予習30時間＋復習30時間)			
授業の概要 【キーワード：初歩的な会計学】 本プロゼミでは、2年前期までに学んだ (はずの) 会計学の基礎をおさらいします。初歩的な内容ですので、受講者としては、会計学の理解がイマイチと自覚しているため復習したい人、3年生以降会計学を学ぶ予定はないがこれを機に総復習したい人などを想定しています。プロゼミで本格的に会計学を学びたい人には物足りないかもしれませんが、そうした人の受講も歓迎します。			
授業の目的 会計学の初歩的な素養を身につけることが、本プロゼミの目的です。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 会計学の初歩的な専門用語や概念を説明できる (DPの知識・理解に対応) 2. 分かりやすい資料作成やプレゼンテーションができる (DPの言語運用能力に対応) 3. 受講生の前で臆することなく意見を言うことができる (DPの言語運用能力に対応)			
成績評価の方法と基準 発表の質、ディスカッションへの参加姿勢、ゼミ運営への貢献度、出席状況を総合的に評価します。積極的なゼミ参加姿勢が高い成績を得るための最低要件。なお、合理的な理由を事前に連絡しない欠席、遅刻、早退は成績評価を著しく下げる点を強調しておきます。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業形態】 全回対面形式で実施します。しかしながら状況によっては全てまたは一部の授業回を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画：括弧内はテキストの章】 第1回：ガイダンスと各自の自己紹介 第2回：導入章 第3回：予備知識編 第4回：会計の役立ち (基礎知識編 1 章) 第5回：簿記と会計の関係 (基礎知識編 2 章) 第6回：会計に関する法律 (基礎知識編 3 章) 第7回：企業会計原則の一般原則 (基礎知識編 4 章) 第8回：貸借対照表 資産 (必須知識編 1 章) 第9回：貸借対照表 負債と純資産 (必須知識編 1 章) 第10回：貸借対照表 貸借対照表から分かること (必須知識編 1 章) 第11回：損益計算書 営業利益まで (必須知識編 2 章) 第12回：損益計算書 経常利益以下、損益計算書から分かること (必須知識編 2 章) 第13回：キャッシュ・フロー計算書 (必須知識編 3 章) 第14回：まとめ			
キャリア支援センターの講演会 (10月12日 (水) 4時間目の予定) がプロゼミ 1 回分の授業に代替されるため、14回分の計画を示しています。この計画は受講生の数などに応じて適宜変更することがあります。			
【授業の方法】 授業の基本的な進め方は、まず発表担当者 (1 回当たり 2～3 人) が発表を行い、その後に全受講生によるディスカッションという二段構成です。			

【自学自習の方法】 各回とも、各自で予習を行ってください（30時間）。予習をしないとディスカッションに付いていけなくなります。授業後は理解が難しかった部分を中心に復習を行ってください（30時間）。このほか、発表担当回の前には、分かりやすい報告資料を作成することが必要です。
教科書・参考書等 【教科書】 田中弘・向伊知郎・田口聡志『会計学を学ぶ 経済常識としての会計学入門 第2版』税務経理協会、2021年（1,800円＋税） 【参考書】 授業中に随時紹介します
オフィスアワー 火曜日18-19時。指定時間以外でも、事前連絡があれば学習相談に随時応じます。なお、会議等で不在の場合や、感染症対策のため研究室（南2号館3階）以外で相談に応じることがあるため、事前連絡することが望ましいです。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 演習形式の授業では、毎回の出席は当然の前提とした上で、受講生の積極的かつ能動的な学習姿勢が不可欠です。また、授業中の私語やスマホ等の使用をはじめ、他人の勉学の権利を害する行為は厳に慎むこと。そうした行為には厳正に対処します。

ナンバリングコード 授業科目名（時間割コード：333491） プロゼミナール（園部） Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 園部 裕子	関連授業科目 社会学	グローバル社会概論、ヨーロッパ社会論、国際社会学	
	履修推奨科目 社会学	グローバル社会概論、ヨーロッパ社会論、国際社会学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 ・社会科学の方法を用いて、移住者、都市の住民集団、社会的排除や格差、などの課題にとりくむための基礎知識を身につける。 ・世界を上（中心）からではなく、下（周縁）から見る視点を養う。 【他の授業科目との関連】 ・「ヨーロッパ社会論」：ナショナリズム概念の基礎知識と現代ヨーロッパの社会変動について学ぶ ・「国際社会学」：国際移動の理論と現代フランスへの移住について、北・西アフリカからの移住者の地位を通して考える ・このゼミナールでは、「都市社会学」の教科書を読んで、都市における課題を分析する方法を学びます。			
授業の目的 教科書を輪読し、レジュメ・発表・レポートを作成し、それについて議論するゼミナールの方法とマナーを身につける。 現代都市の抱える諸課題について基礎知識を身につける。 都市社会学の専門用語を理解し、適切に用いることができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 （工学部JABEE基準）
・社会科学の基本的な考え方や物の見方を身につける。 ・文献の読み方、レジュメの書き方、資料の調べ方、発表方法、聴く人の作法、レポートの書き方などゼミナールに必要な方法とマナーを身につける。 ・都市社会の構造と課題を理解する。			
成績評価の方法と基準 授業での報告、出席と討論への参加・貢献度、発表・レポートへの取り組みなどを総合して評価する。 ただ文献をまとめるだけではなく、オリジナルで批判的な考察を加えること。 発表とレポートは、幅広い文献や資料を用いて、自分なりの視点を展開できているかどうか問われる。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
前半は教科書を輪読する。後半は、各自が自分の関心に基づいて調査したことを発表する。 【授業の方法】 ●前半：教科書を輪読する。1人一章ずつ担当し、レジュメにまとめて報告する。それについて全員で議論する。 ●後半：教科書の内容をふまえ、各自が関心をもったテーマを考え、それについて調べ、パワーポイントを用いて発表する。発表をレポートにまとめ、相互チェックをして改善する。 【授業計画（一部、変更の可能性がある）】 1）オリエンテーション、クリティカル・リーディングの方法学習、分担決め（教科書を持参すること。あらかじめ目を通しておくとよい） 2）第1章・第2章 3）第3章・第4章 4）第5章・第6章 5）課題決定・発表方法の学修1 6）第7章・第8章 7）第9章・第13章 8）発表方法の学修2 9）発表リハーサル 10）個人発表1 11）個人発表2 12）発表の予備日			

- 13) レポート作成方法の学修
- 14) レポートの相互チェック
- 15) まとめ

*前半は、参加者の人数に合わせて読む章を追加し、授業計画を変更する。
*教科書は早めに読み終わり、担当章をまとめること。
*このシラバスを読んだ日から個人発表のテーマを考え、参考文献や資料を探すこと。

教科書・参考書等

【教科書】

松本康編、2014『都市社会学・入門』有斐閣アルマ 定価 2,200円（本体 2,000円）

追加文献は、印刷物を配布する。

【参考書】

浜田麻里・平尾得子・由井紀久子著、1997『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版、2500円＋税

オフィスアワー 研究室：南3号館3階

オフィスアワー：講義中に指示する。事前にメールで予約すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・社会的格差、貧困、マイノリティ、外国人・移住者など現代都市および社会的弱者の課題に感心のある学生、世界を上（中心）からではなく、下（周縁）から見たい人。女性、男性とも歓迎。
- ・受講者の積極的な参加がなければ、講義は成立しない。授業中の居眠り、まったく発言しないなど、関心と積極性が見られない場合、学期途中でも受講を断る場合がある。

ナンバリングコード 授業科目名（時間割コード：323571） プロゼミナール（早木） Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期末定	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 cabE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 早木 祥夏	関連授業科目	経営財務論、統計学、計量経済学	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）			
授業の概要 現代社会において企業とまったく接点を持たずにいられる人はほとんどいません。その企業を知るための取っ掛かりの一つが財務諸表です。財務諸表は一般には公開されていませんが、上場企業であれば有価証券報告書に財務諸表を付して公開することが義務付けられています。この授業では、有価証券報告書の読み方や、財務分析・統計分析の方法を学びます。また、ただ学ぶだけではなく、個人報告やグループ報告を通して企業の様々な意思決定について議論します。			
授業の目的 有価証券報告書の読み方・財務分析・統計分析についての学習を通して、様々な企業の行動や目的を理解するだけでなく、それに対して自分なりの意見を持てるようになり（学士課程のDP「c：問題解決・課題探求能力」に対応）、それを正確かつ分かりやすく表現できるようになること（学士課程のDP「a：言語運用能力」に対応）がこの講義の目的です。これは経済ニュースを読み解くための下地にもなるでしょう。			
到達目標			学習・教育到達目標 （工学部JABEE基準）
1. 企業の有価証券報告書を読み解いて、その企業の行動や目的を説明できる。 2. 企業の様々な行動や目的に対して、自分なりの意見を持って評価し、改善案などを提案することができる。 3. 自分の主張を正確に表現するために情報を取捨選択し、それを文章や口頭でわかりやすく他者に伝えることができる。			
成績評価の方法と基準 ・プレゼンの内容・課題・期末レポート:50% ・積極的な発言・議論・参加姿勢:50% ・やむをえない理由で遅刻・欠席する場合は、事前に申告しない限り大幅に減点しますのでご注意ください。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
原則として対面で授業を行います。 この授業では、受講生一人一人が日本の上場企業（約3,000社）の中から1社～数社を選び、その有価証券報告書を読み解いて企業紹介を行います。また、受講生でいくつかのグループを組み、特定の産業を対象とする簡単な統計分析を行います。最後の二回の授業で、グループごとに分析結果を報告します。 なお、発表者以外の人も積極的な発言・質問・討論を行うことが求められます。 (1) ガイダンス (2)～(4) 有価証券報告書の読み方、エクセルを用いた財務分析・統計分析、プレゼン報告の仕方など (5)～(13) 企業紹介（個人報告・持ち回り制）、産業紹介のためのグループディスカッション (14)～(15) 産業紹介（グループ報告）			
教科書・参考書等 購入の必要はありませんが、良い分析・報告のために下記の参考書等が役に立ちます。 (1) 井上光太郎、高橋大志、池田直史『ベーシックプラス ファイナンス』中央経済社、2020年（2,400円+税） (2) 砂川伸幸、川北英隆、杉浦秀徳『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社、2008年（3,200円+税）			
オフィスアワー 月曜日2時間目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この授業はゼミナールですので、通常の授業のようなインプット主体の内容ではなく、アウトプット主体の内容になります。つまり、単に知識を得ただけでは不十分であり、それを用いて自分の意見や考え方を文章や口頭で表明していく必要があります。特に授業中の発言や議論は極めて重要です。社会人になるとアウトプットができない人は全く評価されませんので、そのトレーニングの意味合いも兼ねて積極的に取り組んで頂ければと思います。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード：323550) プロゼミナール (朴鏡) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 朴 鏡杓	関連授業科目	簿記原理、会計学総論	
	履修推奨科目	管理会計論	
学習時間 演習90分×15回＋ 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、会計情報から何が分かるのか、またどのように読み取ったらいいのかについて学びます。			
授業の目的 文章表現能力・口頭発表能力などのスキルを身につける (DPの「言語運用能力」に対応) とともに企業活動における会計情報の役割と機能を理解できること (DPの「知識・理解」に対応) を目的とします			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 会計の基礎知識を得ることができる。 2. 会計情報を用いた経営分析ができる。 3. 会計情報の役割について理解を深めることができる。			
成績評価の方法と基準 授業に取り組む姿勢、事例研究報告 (または研究発表)、討論への参加、レポート等により総合的に判断します。無断時刻・無断欠席をする者には単位認定はしません。詳細については初回の授業で説明します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
少人数を対象にした授業であるため、講義のように担当教員が一方的に話すのではなく、教員と学生、又は学生同士が話し合いながら授業を進めていきます。			
【授業計画】 第1回 インTRODクシヨN 第2回 会計情報の役割 第3回 会計制度と社会 第4回 会計の仕組み 第5回 貸借対照表 第6回 在庫品の会計 第7回 生産設備の会計 第8回 金融資産の会計 第9回 負債と資本の会計 第10回 損益計算書 第11回 営業活動の会計 第12回 儲かる仕組みの分析 第13回 利益構造の分析 第14回 経営管理と会計 第15回 全体まとめ			
＊ この科目は基本的に対面授業で実施します。ただし、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習について】 会計に関する予備知識は必要ではありませんが、授業の前にテキストの各章を事前に読んでおくことが必要です (毎回2時間程度の予習が必要です)。また、授業中に取り上げた事例や学習内容を復習し、各章の最後に提示した課題に対して自らの考えをまとめて積極的に発言することが求められます (毎回2時間程度の復習が必要です)。			
教科書・参考書等 谷武幸・桜井久勝編著『1からの会計 (第2版)』碩学舎、2021年 (大学生協にて購入可能、2,640円)			
オフィスアワー 火曜日13時～14時の間、南キャンパス2号館2階 朴研究室において随時、質問・相談などに応じます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業計画は、授業の開始時点での予定であり、開始後の進捗状況により変更する場合があります。			

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード：313527) プロゼミナール (福村) Pre-Seminar プロゼミナール (福村)	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 福村 晃一	関連授業科目	公共経済学、地域経済学、国際経済学、経済政策	
	履修推奨科目	ミクロ経済学I、マクロ経済学I	
学習時間 授業90分×15回+予習・復習・報告準備などの自学自習 (準備学習45時間+事後学習15時間)			
授業の概要 経済学の応用分野である、交通経済学について様々な理論上の概念や多様なデータについて、受講生同士が互いに協力しながら、教科書の輪読を通じて学習する。我々の日常生活では、通勤・通学・旅行など移動は欠かせないものとなっている。また、普段消費したり利用したりする物資も日常的に輸送されている。そういった人やモノなどの移動を経済学の観点から分析・評価することは、様々な身近な社会問題を理解し解決する上で非常に重要である。そうした中、国や地方自治体は、交通インフラの整備など交通に関連して、様々な政策を企画・立案・推進している。そして、それらの政策は経済学の観点から分析・評価されている。これら交通の経済学を通じた理解や、交通政策立案などの際に必要な経済学の理論モデルやデータを、教科書の輪読を通じて受講者同士が協力しながら学習する。			
授業の目的 都市や地域に関係する交通政策と関わるうえで必要な基礎的な知識・考え方・データの取り扱い方を、受講生が互いに協力しながら習得することが目的である。(DPの知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
交通経済学に関連する様々な経済データを正確に解釈・運用できる。(DPの知識・理解(21世紀型市民及び学士(経済学)として)、言語運用能力と対応) 交通経済学に関する理論的概念を理解し、現実の経済現象に当てはめて説明できる。(DPの知識・理解(21世紀型市民及び学士(経済学)として)、言語運用能力と対応) 交通問題に対する現実の様々な問題を解決する方策を考えられる。(DPの問題解決・課題探求能力と対応)			
成績評価の方法と基準 次の方法を組み合わせて評価する。 議論への参加 (30%)、報告 (50%)、期末レポート(20%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【講義の方法】 以下の授業計画に基づいて教科書の輪読を基本とした授業を行う。なお、計画が変更される場合があるが、その際は周知する。 この科目は原則全回対面授業を行います。			
【授業計画】 以下の授業計画に基づいて教科書の輪読を基本とした授業を行う。なお、計画が変更される場合があるが、その際は周知する。 1. 授業の概要説明、イントロダクション、担当決め 2. ～14. 担当者による報告 15. 講評・まとめ 上記の講義回数の1回は、「キャリア教育講演会」への参加をもって代替されることとなる。			
【自学自習について】 担当者は、報告する章を他の受講生と意見交換しながら、報告資料にまとめる。担当者以外の受講生は、その章に事前に目を通しておく。理解を深めるには、社会で今問題になっていることと、それを解決する方策について関心を持つことが重要です。			
教科書・参考書等 「交通経済のエッセンス」(有斐閣ストゥディア)、田邊勝巳(著)、2017年、有斐閣(1800 円+税)を輪読する。そのため、教科書の入手が必要である。			
オフィスアワー 毎週火曜日4時限目に、南3号館2階の研究室で対応します。それ以外は事前にメールで予約を取ってください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 大学でのゼミでの教科書の輪読は、講義とは異なり、受講生の主体性が重要です。漫然と字面だけを追うのではなく、文章が表している意味を自分で考えてみましょう。そして、その理解を他の受講生へ説明してみましょう。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-20-Eg2 授業科目名 (時間割コード：333495) プロゼミナール (二ツ山) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期末5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 二ツ山 達朗	関連授業科目	観光学概論 国際観光論 観光産業論	
	履修推奨科目	観光産業論	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 本授業では、観光現象についての事例と理論について、教室内での座学（輪読やテーマ発表）とフィールドでの実践を通して学び、観光をめぐる諸問題について多角的に考察することを目指します。 フィールドワークについては、授業内であがった議論をもとに、高松近辺で実践できることを計画していきます。			
授業の目的 観光現象の事例と理論について基礎的な事項を幅広く学ぶことで、観光について多角的な知識を身に付け、理解を深めること目指します。また、これらの知識・理解を用いて、これからの観光の諸課題を探し、解決探求能力を養うことを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1、専門分野の基礎的な研究史を理解し、関連する概念を整理できる (DPの「知識・理解」に対応)。 2、専門分野についてのプレゼンテーション、レジュメの作成ができる (DPの「言語運用能力」に対応)。 3、発表内容を理解した上でコメント、討論ができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 発表内容50%＋ワークショップやフィールドワーク、討論への参加度50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業は演習形式の発表・討論とワークショップ、フィールドワークなどをまぜて行う。 第1回 ガイダンス・自己紹介 第2回～3回 ミニプレゼン 第4回～10回 テキスト輪読 (テキストはメンバーの興味によって選定) もしくはフィールドワーク 第11回～第15回 プレゼン・ディスカッション 【自学自習のためのアドバイス】 第1回 これまで履修した観光関連科目の内容を復習してくること (4時間) 第2回～3回 ミニプレゼンの発表内容について準備・レジュメの作成をし、発表のリハーサルを行うこと (8時間) 第4回～10回 テキストを読み、その内容の要約と自身の考えをまとめること。発表者は発表準備・レジュメの作成を行うこと (20時間) また、もしくは授業中に提示された内容でフィールドワークを行い、得られた調査結果をまとめること (8時間) 第11回～第15回 発表者は発表準備・レジュメの作成を行うこと。発表者以外は発表内容についてコメントを考えること (20時間) 【授業及び学習の方法】 この科目は対面により実施することを基本とします。 なお状況によっては一部遠隔へ変更する可能性があります。 対面か遠隔かで授業内容を変更する場合があります。 フィールドワークの内容によっては、授業内容を変更する場合があります。 ＊パンフレット・冊子・写真集を作成する場合は、授業時間外での調査・フィールドワークを行う場合があります。			
教科書・参考書等 教科書：授業の最初に、輪読のためのテキストを決定します。 参考書：『よくわかる観光社会学』、安村克己・遠藤英樹・寺岡伸悟・堀野正人編著、ミネルヴァ書房、2011年、2,600円＋税 『観光学ガイドブック』、大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝著、ナカニシヤ出版、2014年、2800円＋税			
オフィスアワー 授業終了後に応じます。 研究室 (南3号館3階) を訪問できる時間帯については授業内またはSNS等で伝えます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 受講生によって、授業計画に若干の変更が生じる場合があります。 授業中の私語、スマホ・ケータイの操作は禁止します。			

ナンバリングコード B4BSN-cadE-30-Ef2 授業科目名 (時間割コード：323555) プロゼミナール (古川) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cadE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ef	単位数 2	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目		
	履修推奨科目 環境システム論、資源エネルギー論、商品システム論、商品実験		
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 この授業では、地域活性化に取り組む現場に実際に出向き、地元住民との交流を通じて、その地域に適した地域活性化のあり方について考えていきます。なお、この授業のフィールドについては、鬼無町（香川県高松市）など香川県内外数カ所を取り上げ、その活性化について考えます。			
授業の目的 ①フィールドワークを通じて、積極性と協調性を身につける。 ②フィールドワークを通じて、コミュニケーション能力を身につける。 ③フィールドワークを通じて、プレゼンテーション能力を身につける。 ④フィールドワークを通じて、問題の発見と分析、および解決のプロセスを身につける。 ⑤フィールドワークを通じて、地域活性化の現状と課題について、自分の考えをまとめる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①仲間と協力して積極的に活動できる。 ②地域の人たちや仲間と円滑にコミュニケーションできる。 ③地域の人たちや仲間の前でプレゼンテーションできる。 ④自ら問題を発見し、その解決方法を考えることができる。 ⑤地域活性化の現状と課題についてについて、自分の考えを述べることができる。			
成績評価の方法と基準 期末テストおよび小テストは行いません。計4回のフィールド調査およびその前後の検討・報告への出席状況により単位を認定します。成績評価については、検討・報告の内容と積極性をみて評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第01回：授業のガイダンスおよびグループ分け 第02回：フィールドについて事前調査および報告 第03回：フィールドについて事前調査および報告 第04回：第1回フィールド調査（於：各地域 時期：10月） 第05回：第1回フィールド調査の報告および第2回調査へ向けた調査項目の事前検討 第06回：第1回フィールド調査の報告および第2回調査へ向けた調査項目の事前検討 第07回：第2回フィールド調査（於：各地域 時期：11月） 第08回：第2回フィールド調査の報告および第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第09回：第2回フィールド調査の報告および第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第10回：第3回フィールド調査（於：各地域 時期：12月） 第11回：第3回フィールド調査の報告および第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第12回：第3回フィールド調査の報告および第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第13回：第4回フィールド調査（於：各地域 時期：1月） 第14回：第4回フィールド調査の報告 第15回：まとめ なお、状況により、対象とするフィールドを変更する場合があります。 【授業方法】 対面で授業を行います。新型コロナウイルスの状況により、変更する場合があります。 教科書の輪読ならびにフィールドワークを行います。 フィールドワークを行うたびに、大学内で活動報告を行います。			

【自学自習のためのアドバイス】 (1) 輪読の準備。次回の調査と報告に向けて、地域の情報収集と整理。資料作成。(2時間) (2) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。(5時間) (3) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。(4時間) (4) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。(4時間) (5) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。(5時間) (6) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。(4時間) (7) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。(4時間) (8) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。(5時間) (9) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。(4時間) (10) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。(4時間) (11) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。(5時間) (12) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。(4時間) (13) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。(4時間) (14) 輪読の準備。これまでの調査結果をもとに報告資料の作成(6時間) * 普段から地域の情報やニュースに興味を持つよう心掛けてください。	
教科書・参考書等 教科書は使用しません。 参考書は随時指定します。	
オフィスアワー 金曜日3時限目 経済学部2号館2F古川研究室	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 各地域での活動は、場合により、土曜日・日曜日に行うことがあります。了承のうえ、受講してください。学生教育研究災害傷害保険に加入していることが条件です。	

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード：313512) プロゼミナール (星野) Pre-Seminar 思考力改善のためのトレーニング	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 星野 良明	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 論理的思考は，経済に関わる現象や問題を大学で専門的に考える際に，必要不可欠です．この授業では，人間の思考のクセや弱点，そして，きちんと考えるための方法や道具について，ゼミ形式で学習します．事前に予習してきたテキストの練習問題や類題の内容について，単独あるいはグループ単位でディスカッションして発表しあいます．			
授業の目的 問題解決と課題探求の土台となる論理的思考力を身につけるために，人間思考の弱点を知り，きちんと思考するためのツールを活用できるようになる．さらに，ディスカッションや発表を通して，コミュニケーション能力とプレゼンテーションスキルを養う．			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・人間の思考に備わるクセや弱点に注意できるようになる (DPの「b. 知識・理解」に対応)． ・思考をきちんと進めるための方法やツールを身につける (DPの「c. 問題解決・課題探究能力」に対応)． ・わかりやすい報告資料の作成と発表を行うことができる．(DPの「a. 言語運用能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回の参加態度と発言 (25%)，発表担当時の内容 (25%)，宿題 (25点)，期末レポート (25%)．			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス1 (自己紹介と担当決め) 第2回 ガイダンス2 (レジュメ作成) 第3回 スキーマとその呪縛 第4回 主張と言動の一貫性 第5回 二重プロセス理論 第6回 人物像 - 代表性バイアス 第7回 計算にまつわる直観と熟慮 第8回 ニュース性と利用可能性バイアス 第9回 メディアと情報 第10回 因果関係の基本 第11回 因果関係を正しく把握する 第12回 因果関係 - まとめの問題 第13回 対照実験 - 条件をそろえる 第14回 対照実験の構造 第15回 プラシーボ効果 ※受講者数などにより，内容を一部変更・省略する場合があります．			
【授業及び学習の方法】 ・授業は，受講生 (単独またはグループ) による報告，質疑応答，意見交換を中心とするゼミ形式で行われます．受講生一人一人に出席だけでなく，毎回の事前準備と授業時間中の積極的な発言が求められます． ・この授業は全回対面授業を行います．			
【自学自習のためのアドバイス】 ・報告担当者 (単独またはグループ) は，テキストの担当範囲を箇条書き形式でまとめた説明資料を作成して，報告前日までファイルを提出します． (15時間) ・報告担当者は，当日の質疑・討論の内容に基づき，説明資料を改訂，再提出します． (15時間) ・グループワークのために，報告担当以外のゼミ生も毎回，テキストを予習して，自分の意見や疑問を整理しておきます． (30時間)			
教科書・参考書等 次の文献を教科書として指定します． ・植原亮 (2020)『思考力改善ドリル』勁草書房．(2200円，生協で販売)			
オフィスアワー 火曜日4時限目 (予定)，南キャンパス4号館3階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席は厳禁です．			

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード：323540) プロゼミナール (松岡) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目	経営管理論、経営組織論、等	
	履修推奨科目	経営管理論、経営組織論、等	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 この授業では、リーダーシップにかかわる諸課題について文献輪読と事例研究により検討する。			
授業の目的 文献輪読と事例研究によりリーダーシップに関する理解と洞察を深める。これらの活動を通して、問題発見能力、問題解決能力、文章表現能力、口頭発表能力の向上を目指す。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. リーダーシップに関する基本的な理論について説明することができる (学士課程のDP「b：知識・理解」に対応) 2. リーダーシップに関する諸課題を自身の言葉で説明することができる (学士課程のDP「c：問題解決・課題探求能力」に対応) 3. 専門分野の基礎に関わるレジユメないしレポートの作成、初歩的な討論、および、プレゼンテーションができる (学士課程のDP「a：言語運用能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 受講態度 (事前の準備状況も含む)、討議への貢献度、課題レポート等に基づいて総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【講義計画】 1. イントロダクション 2～10. 輪読セッション：報告者によるプレゼンテーションと全体での質疑 11～13. 事例研究セッション：ケースディスカッション 14. まとめ *1回分は学部で実施される「キャリア教育講演会」への参加をもって代替する。 *授業は対面での実施を基本とする。 *進捗状況に合わせ、授業計画を修正する場合がある。			
【自学自習に関して】 テキスト、資料を精読して論点を整理してから出席してください。授業終了後は、授業内容を踏まえた振り返りのレポートを作成してください。おおよその学習時間の目安として、準備学習 30時間 (各回 2 時間)、事後学習 30時間 (各回 2 時間) 程度を要します。 輪読セッションでの報告担当者はパワーポイントを用いて報告資料を作成してください(論文 1 本を2～3名で担当いただきます)。			
教科書・参考書等 ハーバード・ビジネス・レビュー編集部(2018)『ハーバード・ビジネス・レビュー リーダーシップ論文ベスト10 リーダーシップの教科書』、ダイヤモンド社。1980円 *生協で販売予定			
オフィスアワー 月曜日・5 限目、南 7 号館 3 階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断遅刻・欠席は厳禁。 事前準備を入念に行い、質の高い討論を行い、有意義なゼミ運営を目指しましょう。			

ナンバリングコード B4BSN-bceE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323548) プロゼミナール (宮脇) Pre-Seminar 社会と私のフラクタル (自己相似) な関係	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目		
	履修推奨科目 会計学・経営学関連の授業科目		
学習時間 演習90分×15回＋自学自習 (準備学習 10時間 + 事後学習 50時間)			
授業の概要 このゼミナールの目標は、個人のコンピテンシー、特に、コミュニケーション能力、自己表現能力およびプレゼンテーション能力を高め、様々な「人間力」を成長させるきっかけ作りをすることです。			
授業の目的 「社会」と「自分自身」をフラクタル(自己相似)な関係として捉え、そこから必要とされる知識・技法・マナーなどを、仲間との相互作用を通して身に付けること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
個人のコンピテンシー (特にコミュニケーション能力、自己表現能力およびプレゼンテーション能力) を高め、様々な「人間力」を磨くことができる。			
成績評価の方法と基準 (1)出席 (原則: 毎回)、積極的な参加態度 (2)個人のコンピテンシーの向上度			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
[授業の方法] まず、毎回、ストーリーテラーとして、各自の1週間の出来事の中から面白い話をしてもらい、表現力を高めます。次に、香川県をホームとするサッカーチームの「カマタマーレ讃岐」のボランティア活動に参加します。また、ボランティアの経験などをもとに、カマタマーレ讃岐とともに共同企画や提案を考え、それをプレゼンテーションします。最後に、「働く理由」をテーマにグループディスカッションします。 ※全回対面授業です。			
[授業計画 (予定)] (第1週) ガイダンス (第2週) 打ち合わせ会議 (カマタマーレ讃岐の関係者との打ち合わせ会議を体験します) (第3～6週) カマタマーレ讃岐のボランティア活動への参加 (日程調整をして日曜日に2～3回参加します (授業はお休みです)) (第7週～11週) プレゼンテーション (グループ別に企画や提案を考え、プレゼンテーションの準備を行い、実際にカマタマーレ讃岐の関係者・4年生・3年生とともにプレゼンテーションを行い、プレゼンテーション能力を高めます。) (第12～14週) グループディスカッション (4年生・3年生も参加し、グループ別に、ディスカッションでの話し方、進め方などを学び、自己表現力を高めます。) (第15週) 360度ミーティング (私を含め、カマタマーレ讃岐の関係者、4年生・3年生から多角的にアドバイスをを行います。)			
[自主学習に関するアドバイス] (第1週) 授業の位置づけをよく理解しましょう。(4時間) (第2週) 事前にカマタマーレ讃岐のHPを見て調べたり、会議ではメモをしっかりとるようにしましょう。(4時間) (第3～6週) よりカマタマーレ讃岐の知識を増やすとともに、ボランティア活動を通して、いろいろな人と協働する体験を楽しみましょう。(16時間) (第7週～11週) グループ別に集まって、調べたり、資料を作成したりするなど、プレゼンテーションの準備をしましょう。(20時間) (第12～14週) テキストとディスカッションイシュー (問題) を配布するので、テキストを読み、ディスカッションイシューに答えられるように準備してきましょう。(12時間) (第15週) 今の自分がどのように見られているかを、しっかり聞いてみましょう。(4時間)			
教科書・参考書等 随時指定			
オフィスアワー 水曜日15:30～17:00 (会議などでいない場合もある)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ まじめに授業や課題に取り組み、仲間と協働作業を行うことができること。			

ナンバリングコード B4ECN-bacE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード：313524) プロゼミナール (持田) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期木5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 持田 めぐみ	関連授業科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	
	履修推奨科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	
学習時間 演習90分 × 15回 + 自学自習 (報告準備、提出課題等で計60時間)			
授業の概要 戦後の日本経済や私たちの暮らしについて、実際の事例を調べながら考えてみましょう。 グループごとの報告に基づいて、経済学全般やマクロ経済学の基本部分についての理解が定着するよう適宜教員がフォローしながら授業を進めます。			
授業の目的 経済学の基本的知識や考え方について、自分たちが調べた具体的事象に基づきながら、理解を深めることを目的としています。実際にその当時の暮らしや出来事を知る人を各自で見つけて、的確なインタビュー調査を行う必要があります。 3年次「演習」の前段階として、各自の担当箇所を念入りに発表準備すること、聞き手にわかりやすい報告を工夫し心がけること、授業内で自分の意見をしっかり発言できるようになることetcの重要性を自ら認識し、少人数集団で一緒に学習していくことの楽しさを学ぶことで、受講生たちが次年度以降、それぞれのゼミナール運営に意欲的に貢献できるようになることを目指しています。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・調査対象の書籍内容から必要な部分を正確に読み取り、他者にわかりやすく伝えることができる。 ・現代社会の諸問題について、経済学の知識に基づいた客観的解釈を試みることができる。 ・基本的なマクロモデルの知識を身につけ、分析手段として使用することができる。			
成績評価の方法と基準 授業への参加態度、発表内容、課題レポート等について総合的に判断します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 授業は、最初に報告担当（グループor個人）が担当箇所を発表し、報告内容に沿って参加者全員で議論・確認しながら理解を深めていく、ゼミナール形式で行います。 【授業計画】 第1週 授業のガイダンス 第2週 効果的なインタビュー調査について（1） 第3週 効果的なインタビュー調査について（2） 第4週 2012年頃（10年前）の日本経済について（1） 第5週 2012年頃（10年前）の日本経済について（2） 第6週 2002年頃（20年前）の日本経済について（1） 第7週 2002年頃（20年前）の日本経済について（2） 第8週 1992年頃（30年前）の日本経済について（1） 第9週 1992年頃（30年前）の日本経済について（2） 第10週 1972年頃（50年前）の日本経済について（1） 第11週 1972年頃（50年前）の日本経済について（2） 第12週 1952年頃（70年前）の日本経済について（1） 第13週 1952年頃（70年前）の日本経済について（2） 第14週 授業のまとめ（1） 上記以外に、学部主催の「キャリア講演会」への出席が1回分必要です 受講生の報告内容によっては、授業内容が多少変更となる可能性もあります この科目は、基本的には「対面」方式で実施予定ですが、感染状況や大学の方針によっては、「遠隔」で実施する回もあります。			

教科書・参考書等

指定書籍はありません

オフィスアワー 初回の授業でお知らせします

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ゼミナール形式の授業ですので、参加の際は、下記の要素が必要となります。

- ・他の受講生と協力して、発表準備ができること
- ・他の受講生の発言や意見を尊重しながら、自分の考えについてもしっかりと発言できること
- ・遅刻、無断欠席をせず、スムーズな「演習」運営に協力、貢献できること

充実した授業を受講できるかどうかは、教員の能力のみならず、皆さんの貢献度にかかってきますので、自覚をもって取り組んでください。

ナンバリングコード 授業科目名（時間割コード：323569） プロゼミナール（森貞） Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 森貞 誠	関連授業科目	調査データ分析Ⅰ、マーケティング	
	履修推奨科目	調査データ分析Ⅰ、マーケティング	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）			
授業の概要 マーケティングやデータ分析に関する基礎的な知識について、輪読やディスカッション、グループワークなどを通して学習していきます。特に、データ分析をどのように経営やマーケティングに活用できるかについて考えていきます。また、講義後半では、グループごとにアンケートの作成・分析をおこなう予定です。			
授業の目的 文献の輪読や演習を通して、データ分析のマーケティングへの活用について考えることを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 （工学部JABEE基準）
・データ分析の知識を用いて、経営学における課題について考えられるようになること（DPの知識・理解，問題解決・課題探求能力に対応） ・プレゼンテーションスキルを身に着けること（DPの知識・理解，問題解決・課題探求能力に対応）			
成績評価の方法と基準 受講態度や発表内容などに基づいて、総合的に判断します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 イン트로ダクション 第2～8回 受講生による発表 第9～第14回 データ分析演習 第15回 まとめ 【講義及び学習の方法】 指定の書籍の内容をまとめ、個人ごとに発表してもらいます。発表内容を踏まえ、受講生でディスカッションをおこない、理解を深めます。また、後半の講義においては、実際にデータの収集や分析をグループごとにおこなう予定です。 【自学自習のアドバイス】 発表に向け、文献の内容を理解しておく。（20時間） ディスカッションに備え、文献の内容を整理する。（20時間） 発表資料を作成し、発表の準備をおこなう。（20時間）			
教科書・参考書等 初回講義時に指示します。			
オフィスアワー 初回講義時に指示します。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断遅刻・無断欠席は厳禁です。 グループワークをおこなうため、他の学生と協力して発表をおこなってください。			

ナンバリングコード 授業科目名（時間割コード：323533） プロゼミナール（安井） Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 P	単位数 2	
担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習（準備時間30時間+事後学習30時間）			
授業の概要 3年次に履修する演習の予備段階として、保険および関連分野に関係するテーマについてレポートの作成やプレゼンテーションを行う。			
授業の目的 問題発見能力、問題解決能力、文章表現能力、口頭発表能力を高める。			
到達目標			学習・教育到達目標 （工学部JABEE基準）
専門分野の基礎に関わるレジュメないしレポートを書くことができる。 専門分野の初歩的なプレゼンテーションができる。 専門分野の初歩的な討論ができる。			
成績評価の方法と基準 出席状況，発言回数・発言内容，レポートの内容，グループ報告の内容			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス まず，指定された課題について担当者を決め，その担当者がレジュメを作成した上で報告する。担当者を含め，全員が前もって課題をレポートにまとめ，それをもとに討論を行う。 課題は現在のところ6回を予定しているが，参加人数により増減する。 課題を終了した後は，グループ毎にわかれ，それぞれが選んだ問題について調査・発表し，それに基づく討論を行う。 第1回 ガイダンスおよびグループの決定 第2～3回 第1回テーマに関する報告と討論 第4～5回 第2回テーマに関する報告と討論 第6～7回 第3回テーマに関する報告と討論 第8～9回 第4回テーマに関する報告と討論 第10～11回 第5回テーマに関する報告と討論 第12～13回 第6回テーマに関する報告と討論 第14～15回 グループによる報告と討論 このプロゼミナールは対面により行う。もっとも，コロナウイルスの感染状況などにより遠隔に切り替える可能性もある。			
教科書・参考書等 教科書および最初の課題については，第一回のガイダンスにおいて指示する。 適宜，指示する。			
オフィスアワー 時間：火曜日の4時限目。変更する場合には講義中に指示する。 場所：安井研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 1. 無断欠席および発表時の欠席は厳禁とする。なお，15分以上の遅刻は欠席とみなす。 2. 毎回，必ず発言しなければならない。 3. 教育的効果を高めるために，授業計画を若干変更する場合がある。			

ナンバリングコード B4STT-bcaE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード：313510) プロゼミナール (横山) Pre-Seminar 表計算ソフトウェアを用いた統計学の学習	科目区分	時間割 後期木5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B4STT	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 横山 佳充	関連授業科目	統計学入門、統計学、情報リテラシー	
	履修推奨科目	経済数学	
学習時間 授業（講義および計算機実習を含む）15回＋自学自習			
授業の概要 3年生以降の授業に対応できるように、統計学、計算機や経済学などの基礎を学びます。統計学の理論的なお話とは異なり、実際のデータなどを用いて計算機を用いての適用することで、統計学の理解や応用を行います。各自、コンピュータを持ち込み、Excelを使いながら実習する予定です。			
授業の目的 統計学は客観的に経済の事象等を把握し、将来の判断に役立てるには最適の学問です。座学として統計学を習った場合、実際にどのように利用するのか、どう役に立つのか疑問を持つかもしれません。この授業では、授業で学んだ知識を活かし、計算機も用いることで、統計学の実質的な活用について考えます。統計的な考え方は経済学部における様々な授業での分析を行う上での基礎部分に相当し、理論と共に、この授業で、計算機と併用し演習を行うことで、統計学の実際の適用に習熟すると共に、客観的な判断の下地を作ることができます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
計算機実習を用いた統計分析処理を学ぶことにより、理論的なことから現実の事象についての科学的対応対応ができるようになる。			
成績評価の方法と基準 普段の学習態度及び提出したレポートの評価。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 計算機演習なども取り入れて授業を行います。参加者各位に各パートについて責任をもって発表してもらう可能性があります。 第 1～ 2回 統計学のための資料整理 第 3～ 4回 確率論の基本 第 5～ 7回 統計学のための有名な確率分布 第 8～10回 excelでわかる母集団と標本の関係 第11～13回 excelでわかる推定 第14～15回 excelでわかる検定 計画は学生の理解度等を含めて調整するため、変更になる可能性があります。			
教科書・参考書等 初歩からしっかり学ぶ実習統計学入門、涌井良幸・涌井貞美、技術評論社			
オフィスアワー 第1回目に説明します。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席しないこと。発表等に当たった場合には責務を果たすこと。なお、提出物はmoodleで管理する予定です。期限内にレポートは提出すること。 なお、このシラバスを書いている時点で、場合によっては、遠隔授業を行わなければならないかもしれません。その際には、zoomとともに、excelが使用できる環境を構築してください。課題に関してはmoodleで受け取る予定です。			